

麦秋

先日、諫早からの帰路、森山あたりの風景を見ていると、一面、麦畑。まさに黄金色に染まって収穫の時期を迎えていました。まず、頭に浮かんだのが「映画：はだしのゲン」で父親が「麦は寒い冬に芽を出し、育てる人の足に踏まれながら大きくなって穂を実らせる。おまえたちもこの麦みたいになるんだぞ」と話した冒頭のシーン。

次に浮かんだのが「麦秋」。この言葉は“秋”という漢字を使っていますが、5月末から6月初め(通年は梅雨入り前)の季節を示します。これまた不思議。なぜそうなのかというと、『麦が熟し、麦にとっての収穫の「秋」である』ということからつくられた言葉だからです。“麦”と言えば、私達の身近な食材です。もちろん皆さんは“小麦”と“大麦”があるのは知っていますよね。

(ちなみに、英語で小麦は「wheat」。大麦は「barley」です。)当然、何に使われるかも知っていますよね。小麦が原料の食品にはパンに加え、うどんやパスタなどの麺類があります。一方、大麦は麦ご飯、味噌、麦茶、ビールなどの原料として使用されます。最近では体に優しい麦ご飯などに注目が集まっていますが、みなさんが口にすることが多いのは小麦ではないかと思えます。では、大きな違いは何か。小麦にはグルテンというタンパク質が豊富に含まれています。一方、大麦にはこのグルテンがほとんど含まれていません。小麦粉に水を加えてこねると、粘りと弾力性が出てくるのは、多くの方が知るところですが、この粘りを生み出すのがグルテンです。グルテンによってパンはふっくらし、麺類は細長く成形できるのです。

今、まさに『麦秋』です。せっかくの時季ですから、“麦”という食材に目をむけ、“麦”に感謝しながら、食を楽しんで欲しいと思います。ということで、私も今日もビールを楽しみます……



手ごたえは・・・



先週の木曜日、金曜日に全国学力学習状況調査(3年国・数)と県学力調査(2年国・数、3年英)が実施されました。この調査は例年4月に実施されていますが、これまたコロナの影響で、今年は5月末の実施となりました。生徒にとっては、自分の学習の理解度がどの程度なのかを確認できる良い機会です。個人の結果については、採点や集計(全国及び県)に時間を要しますが、分かり次第お知らせいたします。また、この結果を受け、学校においても分析を行い、理解度の低い領域、補充すべき領域等の対応を行っていきます。いずれにしても、学力向上のカギは『授業への集中、そして、家庭学習の充実』です。先日も、廊下に「誰の為、何の為」という文字を掲示しました。「誰の為の勉強か、何の為の勉強か」を考え、目的意識を持つことが大切です。最後は自分なのです。今回の学力調査の手ごたえは、誰より自分がわかっているはずです。改善すべき点、伸ばすべき点は何なのかを今からしっかり確認し、自分と向き合いながら、覚悟を持って学習に励んでほしいと思います。